会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和4年度 第2回入間市総合教育会議
開 催 日 時	令和4年12月23日(金) 午後1時00分 開会、午後2時20分 閉会
開 催 場 所	市庁舎B棟4階 大会議室
議 長 氏 名	-
出席委員(者)氏名	市長 杉島理一郎 教育長 中田一平 教育長職務代理者 高山茂 教育委員 橋本清美 教育委員 山本和人 教育委員 齋藤良徳
欠席委員(者)氏名	-
説明者の職氏名	教育部社会教育課長 吉川哲夫
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(すべて公開) 1. 開 会 2. 挨 拶 3. 協議・調整事項 (1) 各小中学校におけるPTAの現状と今後のあり方について (2) その他 4. その他 5. 閉 会
傍 聴 者 数	1人

<p>配布資料</p>	<p>資料1：入間市内小・中学校におけるPTAの現状と今後のあり方について</p> <p>資料2：令和4年度 PTA等の実態調査結果</p>
<p>関係者職氏名</p>	<p>○教育部 教育部長 浅見嘉之 教育部次長 佐藤政史 教育部副参事（教職員指導担当） 金岡広道 教育総務課長 村田雄一 教育総務課主幹 千葉茂 教育部社会教育課長 吉川哲夫 社会教育課主事 大橋貫志</p>
<p>事務局職員職氏名</p>	<p>○企画部 企画部長 岩田正博 企画部次長 栗原康友 企画部参事兼企画課長 黒木聡子 企画部副参事（政策担当） 亀田一生 企画課主査 金子淑子 企画課主事 増田裕太</p>
<p>会議録作成方法</p>	<p>要点筆記</p>

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

<協議事項>

(1) 各小中学校におけるPTAの現状と今後のあり方について

各小中学校におけるPTAの現状について実態調査結果を基に説明し、それに対して市長、教育長及び各委員が意見交換を行った。

(2) その他

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
企画部長	<p>(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)</p> <p><進行：企画部長></p> <p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶</p> <p>3. 協議・調整事項</p> <p>(1) 各小中学校における PTA の現状と今後のあり方について 協議・調整事項について教育部より説明を願う。</p>
社会教育課長	<p>入間市内小・中学校における P T A の現状と今後のあり方について説明する。</p> <p>(資料 1、資料 2 を説明)</p>
企画部長	<p>ただ今の説明について、質疑等はあるか。</p>
市長	<p>実態調査の結果を見ると、思った以上に P T A に加入しているという印象を受けている。3 点について教えていただきたい。1 点目は近隣の状況や全国的な状況と比較して、どのような状況であるか分析等があるか、2 点目は現在、加入が任意である旨の説明をしているとのことであるが、過去は強制的に加入する実態等があったのか、3 点目は任意加入である中、非加入家庭への不利益や差異はあるのか確認したい。</p>
社会教育課長	<p>まず、近隣の状況について、昨年度入間市は非加入家庭が 5 家庭であるが、狭山市では 2 3 家庭、所沢市では 1 7 0 家庭である。埼玉県内の状況</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>について、最も非加入家庭数が多い自治体は戸田市であり、8,927会員数の内、1,081家庭が非加入となっている。</p> <p>2点目について、埼玉県からPTAが任意加入である旨の通知が平成29年に届いており、それを受けて市のPTA联合会や校長会等で任意加入である旨を説明し、各小中学校の入学説明会等で任意加入である旨を説明している。</p>
市長	平成29年度以前の市内学校では強制加入だったということで良いか。
社会教育課長	任意加入である旨の説明が至っていなかったということである。
企画部長	非加入家庭への不利益や差異はあるのかについて、説明を願う。
教育長	現場にいた時にも非加入家庭はあったが、非加入家庭であることをもって差異を作ることは当然学校教育の中ではあり得ないため、一律同様に対応をしていた。他の学校でも同様であると考えている。
企画部長	引き続き教育長から補足や意見等があれば発言を願う。
教育長	<p>PTAは任意団体ではあるが、学校運営上大変重要な組織である。学校教職員のみで子どもたちの教育環境を整えることには限界がある。子どものことをよく知り、発達段階の子どもたちの養育をしている保護者の方に学校運営に関わっていただく意味では、一人でも多くの方がPTAに加入していただき、教員と共に子どもたちを見守り、育てていく非常に重要なことだと捉えている。実態調査の結果でPTAが任意加入である旨を説明していない学校が2校あることに驚いているが、任意団体である旨を説明した上で、保護者の方に加入いただいているのが実態である。若干名ご加</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>入いただかない家庭もあるが、概ねどの家庭も子どものために加入いただくとともに、教員については全員が加入している。このような形で共に子どもたちをよりよく伸ばすための環境を作るための取り組みを実施してきた。しかしながら、社会や時代の変化に伴い、そぐわない部分も出てきたと感じている。具体的には、役員になった方が負担を感じながらやっている場合もある。保護者の意見を取り入れて行ってきたが、1年毎に役員が変わるということもあり、前年踏襲となる事例も多くあり、課題になっていると思う。</p> <p>また、役員をやっていただいた方にやって良かったと思っていただけるようなメリットを作ることも大事であると思っている。</p> <p>P T Aについては、新しい時代にあったものを模索しながら、子どもたちのために、学校と家庭が協力していきたいと考える。</p>
企画部長	委員の意見をお願いします。
山本委員	入間市は埼玉県の中のどの地区のP T A連合会に加入しているのか。
社会教育課長	入間市は入間地区のP T A連合会に加入しているが、入間地区のP T A連合会は県のP T A連合会には加入していない。
山本委員	<p>全国でP T Aがない県はない。最近は働く女性が増えた中で、役割を持つことが難しいという悩みを持つようになり、問題が起こっている。知る限りでは、元々戦後教育改革の中でP T Aが作られ、試行錯誤を経て戦後教育制度が変わり、学校のあり方も変わっていったが、親と先生が子どものことを考えながら育てていくということは続いてきている。そのような中で、権利意識の問題や女性の社会進出でP T A活動が難しくなってきた。P T A活動の中心は女性であったが、だんだんと大変になる状況の中</p>

発 言 者	発 言 内 容
高山委員	<p>で、どうして役員を引き受けなければならないのか、みんなが入る必要があるのかと声が上がるとなり、学校・自治体で工夫をしながら運営している。加入していない人が増えているが、加入していない人が増えることが学校教育やP T A活動にとってマイナスかと言われれば、必ずしもそうではないという面もあり、やりたい人ができることをやるというスタイルでより活発になったという事例もあると聞いている。これからのあり方をみんなで考えていくという形で呼びかけていくということが大事であると考え。教育長の発言のとおり、これからのコミュニティ・スクールの中では、地域の中で学校をよく理解しながら、学校と関わることのできる人はP T A活動経験者ではないかと思う。過去にP T A活動に参加し、現在地域の活動に取り組んでいる人は県内に大勢おり、学校教育や社会教育に良い影響を与えている。</p> <p>問題点として、学校の先生が親よりも上であるという意識を持っていることがあるということやP T A会費の徴収を学校がしているといった個人情報取扱が意識されていないことの問題があり、正す必要がある。また、地域の中で学校に関わりたいと思っている、子どものいない方がいる中で、これらの人を巻き込んでいく工夫をしないとこれからのコミュニティ・スクールが心配な部分も出てくると考える。</p> <p>時代とともにP T Aが変わっていく過程を直視してきたが、P T Aは戦後、学校をサポートしていく最も大きな全国的な組織で、全員が入るという前提のもと、子どもたちの教育環境を整えていこうとして発足した。P T A活動でありがたいと思ったことは、子どもたちの命や健康を守るために草刈りや枝おろし等の学校内外の環境を整備いただき、応援いただいたことである。また、小さい子どもが誘拐された際には、パトロール活動等の地域の安全活動に尽力いただき、各行事では準備や後片付けでサポートいただいた。金子地区には教育後援会があり、お金を出し合い、備品の管</p>

発 言 者	発 言 内 容
橋本委員	<p>理や校外行事の旅費に活用する等応援いただいた。このような姿勢は大切であり、強制でなくても入った方がよいものであると考える。ただし、共働き世帯の増加や価値観の変化、ひとり親家庭が増えている等の要因で役を持つことができず、昔のような形では運営できないという問題がある。そのため、組織のあり方や役員の数を含めて現在の形にあったP T Aのあり方を模索し、支えなければ良い子は育たないと思う。</p> <p>P T Aの現状について、子どもが3～4人いる家庭は、役員を3～4回経験することになる。本部役員や長になる場合は下の子の分の役回りが免除されるが、その場合、役員になった日から本部役員や長になるため、大きな負担を抱えることになる。理事会等は平日夜6時以降や土日に行われることが多く、小さな子どもがいる家庭では非常に難しい。また、一年間を通してやらなければならないことや、世代の違う子どもがいれば幼稚園・小学校・中学校といった複数の場での役割を求められる事例もあり、負担を抱えることや苦痛となることがある。一部の学校で、本部役員になった保護者は次年度の本部役員を自力で見つけなければならないという場合もあり、苦痛なことである。今の保護者にとっては周囲に知人が多くいない環境で、適任を見つけることは難しい。その他P T A会費の納入を忘れた方に対し、自分のスマートフォンで連絡をしなければならないといった個人情報に関する意見も保護者から寄せられている。良い点としては、学校の先生と話す良い機会となることや近所や幼稚園からの知り合い以外の保護者と知り合い、仲良くすることができるという意見があった。こういった現状を踏まえると、P T Aをなくすのではなく、幼稚園や保育所のように一年間の行事を分けて、保護者全員で分担する方がよいのではと思う。</p>
齋藤委員	子どもが小学生の時にP T A会長になったことがあるが、そこから引き

発 言 者	発 言 内 容
	<p>続き地域の中学校区健全育成推進会の役員になったが、聞く限りではここ10～15年程度で形が変わってきたと思う。地域のサポートが徐々に薄れてきた中で、各種ボランティアをやる方が増えている現状があり、このような広義の地域のサポートが増えていると感じている。しかし、多くの学校では役員の成り手がいないと聞いており、地域の学校をサポートしていく気運とPTAのあり方にずれが生じていると感じている。このようなことについてはPTAのあり方を見直すことで改善していくと考える。コミュニティ・スクールに関する話が進む中、中核となるのはPTAであるので、保護者の方がPTA活動をしやすくなるように組織や行事の運営方法を見直すことが良いと思う。任意加入である旨を伝えつつもやむを得ない事情がある場合以外は入っていただくような形にやり方を変えていくことが良いと思う。</p>
高山委員	<p>非加入である理由は「役員になることが難しいから」や「PTA活動そのものに意味がないと感じている」、「負担金の支払いが難しい」等が考えられるが主な理由は何か。</p>
社会教育課長	<p>詳細な理由については把握していない。</p>
企画部長	<p>詳細については、今後把握いただければと思う。これからの時代にあったPTAのあり方を模索していく必要があるというのが共通の認識であった。今後どうあるべきかについて、委員の意見を願います。</p>
高山委員	<p>地域学校協働活動や社会教育法の地域学校協働活動推進員等の組織が機能していくことでPTAの役割も軽減されると思う。PTAの専門部や本部役員の会議回数の見直し等物理的な負担を減らすことが必要である。</p>

発 言 者	発 言 内 容
山本委員	<p>任意加入である旨を周知することは、新しい動きであると思う。橋本委員のご意見のようにそれぞれの学校のPTAで工夫できることがあり、地域や学校規模によって必要なものが違うが、PTAのみで検討し、結論を出すことは難しいため、教育委員会としても是正する形で関わる必要があると思う。学校独自のPTA会員向けの調査も行われているようであるので、その情報を参考にしつつも子どもが最終的な利益者となるように、先生や保護者が納得できる関わり方が出てくることを期待している。保護者自身、先生自身も学ぶ場がPTAであるので、それらをきちんととらえながら、今の時代にあった形で進めることが重要である。PTAの中には厚生委員会やサークル活動を実施しているところもあると聞いているが、楽しい場もあると同時に、有意義であり、学校に関わることが面白いと思ってもらえれば良いと思う。忙しい時代の中で絶対に集まるのではなく、オンラインで実施する等工夫をしつつ、今の時代にあったものにしていくこと、また、子どもの数が少なくなる中でPTAのみで学校を支えることは難しいので、地域とのかかわりを考えながら進めることが重要であると思う。</p>
高山委員	<p>PTA活動の中に家庭教育学級があるが、市から年に5～6回入れてほしいとの依頼があり、担当者が企画・運営するが、昼間の講座であり、保護者にとって負担になるが、講座を夜にすると教員にとって負担になる。明確な答えはないが、時代にあった方法を模索する必要がある。</p>
齋藤委員	<p>上手くいっている学校や他校の事例を参考にすることが良いが、経験上、保護者は学校の除草作業や運動会の準備等では協力的なので、会議回数の削減や運営方法を考えることで、やりやすくなると考える。</p>
橋本委員	<p>PTA活動でのつながりで、その後の駅伝大会で保護者同士が走ること</p>

発 言 者	発 言 内 容
教育長	<p>や役員の時に関わった人との年賀状が続いていること、子ども同士もやり取りが続く等つながりがある。こういったつながりは進学先が同じ小学校や中学校でなくても継続できていることから、役員はなくすのではなく、残す方向で考えないといけないと考える。コミュニティ・スクール、地区センターを踏まえて、地域と保護者と学校が結びつくことが地域活性化につながる形で、さらに iPad 等を取り入れながら、地域とのかかわりをつくり P T A 活動がうまく回るような形になっていけば良いと考える。</p> <p>貴重なご意見感謝申し上げます。学校が大変忙しい状況の中で、P T A の組織について、各学校が主体的になって改善していくことはやや難しい時期であると考えている。山本委員のご意見のように教育委員会がイニシアチブをとる部分もあっても良いと考え、齋藤委員のご意見のように上手くいっている事例等を紹介する手段もあると思う。子どもたちには多様な考え方を持つ他者と交流をして考えを深めていくコミュニケーションの大切さを教えている。大人もそういう交流を主体的に実践し、子どもの教育という一つの視点を中心としながら関わっていく、そういう組織作りができれば良いと考える。また、コミュニティ・スクール等も含めて地区センター化をして、各地域が主体的になって自分の地域を活性化していくところに子どもたちを巻き込んでいただきながら市全体が活性化できればと感じた。</p>
市長	<p>平成29年に任意加入である旨を県が通知した際に、県議会議員であったこともあり、問題意識を持っていた。当時はP T A の過度な負担や役員を強制させられてしまい困っている、仕事に対する影響が出てしまうという状況がある中でP T A の問題が出てきたのに、県教育委員会は任意加入を通知することを選んだので、任意であることや加入は自由であることを伝え、加入同意書を求めることで結果として入らない人が出てきてしまっ</p>

発 言 者	発 言 内 容
<p>高山委員</p> <p>市長</p>	<p>た。基本的に保護者は子どもたちのために学校の先生と交流したいし、P T A活動をやりたいという気持ちはあるが、負担はどう考えたら良いかということが本来のポイントであると思うので、本末転倒な流れだと感じていた。委員の話の中で、結果としてP T Aのあり方や役割、仕事のあり方を見直すべきという意見になっていたことはまさにその通りであると思うので、今後は成り立ちから見ても、学校としてP T Aという組織がなぜ必要かということも整理する必要があると思っている。P T Aは合意形成としての役割を持っており、市が進める方針についてP T Aに合意いただければ、概ね保護者の皆様方の同意をいただいているものと捉えることができる。また、行事等での手伝いや親睦・良好な関係を築くための組織という役割があることを考えると、それぞれの趣旨が分かれば協力いただければと思う。そういった趣旨を一まとめにして役割や活動を付加していったこれまでの組織形成が間違いであったと思うので、活動の精査と何のためになっているのか保護者の皆様が感じられるようなあり方が必要である。活動が子どもたちのためになっている、先生たちとの信頼関係構築につながっているというのが見えてくる描き方が必要であると思うが、P T Aにそれを求めるのは難しいので、教育委員会でできれば良いと考えるが、学校単位の地域性を重要視するのであれば、学校でイニシアチブをとっていただくことがよいのではないかと考える。</p> <p>自治会等の役員にも通じることだが、前例踏襲で良いという考え方が根底にある。世の中が変わっていく中で時代と合わない活動を続けることで直面する課題も多く、これまでの活動をそのまま継続するのは簡単な話ではないと思う。自治会やP T A等の組織では、変えるべきことは勇気を持って変えていく雰囲気組織内で作った方が良いと考える。</p> <p>豊岡小学校や豊岡中学校では組織で何かをするというよりは、その時々</p>

発 言 者	発 言 内 容
高山委員	<p>にボランティア制でやるような形に変えようという動きがあると聞いた。</p> <p>狭山市の18の小学校のうち、1校のみPTAがなかった学校があった。その学校は市長の発言のとおり、行事の時のみ応援する形で上手くいっているとのことである。一方で、校長の立場としては、何かあったときにすぐにPTAに相談できる身近な組織があると安心である。</p>
市長	<p>LEBER（リーバー）というソフトを教育長に入れていただいているが、ダイレクトで保護者とつながるようになっていたので、一斉通知をタイムリーで出しやすくなってきた。</p>
高山委員	<p>PTA広報を係で出しているが、非常に大変であり、やりたくないとの声を聞いている。</p>
市長	<p>学校の仕事の外注のようなイメージになっている。</p>
橋本委員	<p>印刷するまでは保護者であるが、印刷は外注である。もう少し社会福祉協議会等の協力を得た方が良く考える。例えば、「〇〇学校で除草作業が行われました。」ではなく、「〇〇小学校で除草作業が行われますので、よろしければお越しくください。」という形で学校や社会福祉協議会がお知らせを出しても良いと思う。あるいは中学生ボランティアが活動的なので、中学生が他の中学校の活動に参加するなどのことをしても良いと思う。</p>
企画部長	<p>協議事項のテーマについて、親の負担を考える時に、任意加入であることを全面に出して進めるのではなく、PTAのあり方をどう見直していくのか、その時に地域との関わりや親も学べる楽しい場であることを意識し</p>

発 言 者	発 言 内 容
高山委員	<p>て考えていければ良いという意見であったと思う。このことをPTAがやるとなると負担がかかるので、学校が動きやすくなるために教育委員会が働きかけをしていければと思う。続いて、「(2) その他」ということで、何か意見があれば発言を願う。</p> <p>部活動の地域移行について、子どもの健全育成や夢を育む学校教育などの色々な視点から、部活動が曲がり角に来ていると思う。国は地域移行と盛んに言っているが、課題は多いと思っている。意見を出していただいて、市としてどういう方向に持っていくか協議していただきたいと思う。</p>
企画部長	<p>承知した。部活動の地域移行は外部指導者や先生の働き方改革等の観点から意見交換ができると考える。次回の会議で協議事項に加えることが可能か事務局で検討いただきたい。他に意見はあるか。</p>
企画部長	<p>4. その他</p> <p>連絡事項として、事務局より、次回の総合教育会議の日程について申し上げます。</p>
企画課長	<p>次回の総合教育会議は、令和5年3月24日(金)午後1時からの開催を予定している。日程が近づいたら改めて連絡する。</p>
企画部長	<p>5. 閉会</p> <p>以上で閉会とする。</p>

発 言 者	発 言 内 容
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p>	
<p>令和5年 2 月28 日</p>	
<p>市 長 の 署 名</p>	<p>杉 島 理 一 郎</p>
<p>教 育 長 の 署 名</p>	<p>中 田 一 平</p>